

小さな世界

成瀬中学校 大角 健

私は「永遠」を信じていない。しかし、かつて、日本がまだ江戸時代であった頃、永遠の世界平和の実現について考えた、エマヌエル・カントという哲学者がいた。

彼の著書「永遠平和のために」では“どうしたら世界から戦争をなくせるか”という人類史上の難問に対して、現実的な視点から考察されている。

まず、平和を築くためには、人間の本性を美化してはいけない。私もカントと同じく、人間とはそもそも、戦争をせずにはいられない生き物だという前提から出発しなければならないと思う。なぜなら約70年の間に一度も戦争をしていない国は、197か国中、わずか8か国のみであるからだ。

これらの国は、それぞれ自国の事情に合った方法で戦争を回避してきた。この8か国の中には日本も含まれている。

しかし今、日本の近隣諸国が、開戦したり、戦争に加担している国ばかりになり始めている。私は、国どうしが武力による戦争をしない状態が、平和に直結していることだと考えている。

だから、どうしたらこの世界が平和を保ち続けられるか、つまり、戦争をしない世界を築けるのか、カントの考えた策を参考にしながら考えた案を、提言したい。

イタリア半島の中に、サンマリノという小さな共和国がある。この国は建国以来、約1700年間、一度も戦争をしたことがない。永世中立国のスイスや、鎖国をした日本であっても、何回かは戦争を経験している。

という事は、平和について考えるならサンマリノの国の在り方を軸にしようと思う。

戦争は、過去の歴史を振り返ると、どの国も政治の実権を握る人物によって始まっている事が多い。つまり簡単に言うと、全世界の政治的権力者が全員、「戦争をしない」という考えを持てたら、戦争が起こる確率は一気に限りなくゼロに近くなるということに気付いた。

だから私は、必ずしも、世界から今すぐ武器を無くす勇気を人間が持てなくても、戦争をせず、平和を維持することは可能だという考えだ。

では、逆算して考えてみよう。国同士が争う一番の原因は、「土地と資源」だろう。それならば、争いの元になるような資源を抱える土地は、一つの国が独占したりするのではなく、公海のように国際的に管理するのはどうか。“あの国が石油を独り占めして大もうけしている”“レアメタルがウチの国にも欲しい”。現在では、そうした欲望から、土地の奪い合いが続いている。

しかし、世界遺産を管理・保護するユネスコのような国際的な機関を作り、人類みんなのものとすれば、奪い合いは起こらないのではないか。権力の集中も防ぐために、サンマリノに倣い、国の代表や議員は半年毎に交代・改選する。ただし国連のように、常任理事国を作ることは、各国の平等のためしない。

結果、国土が大幅に小さくなる国がたくさん出てくるだろう。だが、むしろそれでよい。サンマリノは、国土こそ小さいがその分、国民が政治を身近な自分ごととして考えている。全ての国で全ての人が、等しく政治に直接関わる機会を得られる体制を整えば、きっとサンマリノの執政官たちのように、平和を第一に考えた決定をする事ができるようになるだろう。

持っている土地を手放す事は、勇気が必要だ。でも近年、個人レベルでは、断捨離が世界で浸透し、受け入れられたことを踏まえると国単位でも不可能では無いと思っている。

金の成る木を持っていたとしても、永遠に持ち続ける事はできないはずだ。ならば、みんなで同時に手放す事で、平和が構築できるなら、ぜひ実行してほしい。